

の南九州

第 16 号
平成23年11月4日発行

議会だより

MINAMIKYUSHU CITY



田んぼアート「がんばろう日本」(川辺町)

防霜ファン設置事業費など1億1800万円補正	2
条例制定・陳情	5
22年度一般会計決算219億円	6
一般質問	8
活かせ提言	14
市民の声	16

費など補正

9月定例会

9月定例会は、9月6日から9月30日までの25日間の会期で開催されました。
補正予算をはじめ、南九州市税条例の一部改正など慎重審議の結果、原案どおり可決されました。また、陳情1件が採択されました。

一般会計の主な補正

補正予算の主なものは、防霜ファン設置事業費、JR西穎娃駅管理費などで、1億1832万4千円を追加し、補正後の予算総額を207億4608万2千円としました。

議会費

○市議会議員費

▲100万4千円

常任委員会の管外研修
地変更に伴う旅費の減額
である。

総務費

○JR西穎娃駅管理費

1350万8千円

JR西穎娃駅トイレ
改修事業が「木のあふ
れる街づくり事業」に



改修される西穎娃駅トイレ

採択されたことに伴う
トイレ改修工事である。
財源内訳は県補助金が
435万円と一般財源が
915万8千円である。

審査の中で

問 市が整備する必要性
は何か。

答 利便性の向上によ
り、指宿・枕崎線の利用
促進や穎娃高校の生徒確
保、観光客の誘致などの
地域活性化が図られる
が、JR九州としては改
修の考えがないことか
ら、市が整備すること
になった。

○固定資産土地評価統合
整備事業費

52万5千円

昨年度実施した標準宅
地鑑定評価を再調査し、
時点修正を行う委託料で
ある。

民生費

○地域支え合い体制づく
り事業費

547万7千円

地域の市民活動として
高齢者などへの福祉サー
ビスを提供する活動を支
援する経費で、財源は全
額県補助金である。

○古殿保育所費

221万1千円

0歳児が見込みより多
く入所し、臨時保育士1
人の雇用が必要となった
ため、賃金などを増額す
るものである。



子育て支援の充実を

○児童扶養手当関係費

380万9千円

母子父子家庭の受給対
象児童数が、見込みより
増えたことによる扶助費
の増額である。

衛生費

○老人保健事業費

309万9千円

平成22年度老人保健事
業の医療給付費事業実績
による返還金である。

防霜ファン設置事業

農林水産業費

○都市農村交流対策事業費

80万円

水田の有効活用及び都市住民との交流を支援し、地域活性化に取り組むため、平成24年度に湿田などの転作条件不利用地などを活用して、田んぼアートを行うための準備経費である。



みごっか! 田んぼアート (青森県田舎館村)

○環境保全型農業直接支援対策事業費

120万円

環境保全型農業に取り組む農業者に対し10アール当たり、国4千円、県と市がそれぞれ2千円の計8千円を補助するものである。

〔審査の中で〕

問 事業対象農家は。

答 県が認定しているエコファーマーで、作物別では、お茶10戸、ごま6戸、野菜2戸の有機農業を実施している18戸の農家が対象となっている。

○穎娃農業開発研修センター管理運営費

▲26万円

長期研修生の農家実習に対する補助金を計上していたが、応募が無く減額するものである。

〔審査の中で〕

問 研修生の減少により、施設が有効活用されていないと考えるが、今後、研修生の受入体制を検討すべきではないか。

答 都会からの新規就農者が少ないことから、市内農家の後継者を重点的に研修生として受け入れたい。

○熊ヶ谷放牧場施設改修事業費

1260万円

施設の台風災害及び老朽化による牛舎などの改修に係る工事請負費である。

〔審査の中で〕

委員から 屋根の改修については部分改修となっているが、築後45年経過している建物もあり、全面改修も含め、関係部署と調整するよう要望する。

委員から 屋根の改修については部分改修となっているが、築後45年経過している建物もあり、全面改修も含め、関係部署と調整するよう要望する。

○防霜ファン設置事業費

1405万3千円

当初計画を上回る申請があったため、不足する補助金を増額するものである。

〔審査の中で〕

問 農家戸数及び対象地域について説明を。

答 穎娃地域56戸の16・96ヘクタール、知覧地域6戸の1・43ヘクタール、川辺地域4戸の1・46ヘクタールで、全体で66戸の19・85ヘクタールである。

消防費

○消防総務費(一般経費)

927万1千円

東日本大震災により死亡または行方不明となっている消防団員への公務災害補償のため、責任共済掛金が引き上げられたことによる差額分の経費が主である。

土木費

○市道単独整備事業費

36万4千円

積算作業に必要な土工・土積計算システム機器が不具合となったための備品購入費である。



台風被害にあった熊ヶ谷放牧場

教育費

○学校共済住宅費（一般経費）

253万9千円

教職員住宅の浄化槽破損に伴う改修工事が主なものである。

～審査の中で～

委員から 長期間入居されない教職員住宅の活用のため、市外から通勤する教職員に入居を働きかけること、市民の入居が可能か、規則改正の検討を含め対策を講じるよう要望する。

○小学校施設管理費

450万5千円

中福良小3・4年生が複式学級になったことに伴う黒板などの改修及び松山小の法面が大雨により一部崩落したことに伴う工事請負費である。

○中学校施設管理費

784万5千円

川辺中学校弓道場の雨漏り防止のための屋根改修工事費と非常放送設備機器の故障に伴う備品購入費である。



雨漏りがする川辺中弓道場

○給食センター供用開始準備経費

▲129万1千円

東日本大震災の影響により給食配送車4台を、新車リースから中古車リースへ変更したことによる賃借料の減額である。

～審査の中で～

問 車体規格の異なる中古車リースとなったことにより配送に不具合は生じていないか。
答 コンテナ室の庇に接触する可能性がある学校については、夏休み中に改修を行っている。

委員から 配送距離が伸び、配送も長時間となることから、業務委託者、リース業者と情報交換を密に行い、事故などが発生しないよう要望する。

○川辺文化会館管理費

130万1千円

保守点検報告書により冷却温水ポンプ分解整備などが必要となったための修繕料である。



東日本大震災の影響で新車から中古車へ

○ミュージアム知覧管理費

152万4千円

空調機器及び映像システムのの一部が故障したために修理を行う経費が主である。

○地区公民館管理運営費

37万9千円

勝目校区公民館敷地内のセダンなどが、道路の通行に支障を及ぼすため、その剪定に要する委

託料である。

特別会計

○国民健康保険事業

5692万9千円

平成22年度国庫支出金の精算による返還金が主である。

○後期高齢者医療

79万円

平成22年度決算剰余金

の一般会計への返還金が主である。

○介護保険事業

1億1770万4千円

過年度精算に伴う国・県・支払基金への返還金为主である。

その他の議決

専決処分の承認

○東日本大震災により被災した介護保険被保険者に係る保険料減免のため、南九州市介護保険条例の一部を改正する条例の制定について専決処分したもの。

「専決処分」とは

議会で議決すべき事件を市長が処分するもので、市長が議会を招集する時間的余裕がないときなど限定的に適用される。

専決処分した場合は、次の会議において報告し、承認を求めなければならない。

陳 情 採 択

◎地域医療と国立病院の充実強化に関する陳情書

提出者：全日本国立医療労働組合
南九州市顚娃町牧之内3745-6
有馬 さおり

医師・看護師不足や公的病院の縮小・閉鎖によって、救急患者の受け入れ先がないなど、地域医療が崩壊しかねない事態が全国で生じている。

公務員削減一辺倒の施策や総人件費・運営費交付金の削減ありきの施策を見直し、病院運営を支える人員を確保することが必要である。いつでも・どこでも・だれでも安心して医療を受けられる体制の確立は、国民の切実な要求であることから、地域医療の充実と国立病院の存続・拡充の実現を要望する。

意見書の提出

提出者：南九州市議会

- ・国立指宿病院については廃止・縮小・民営化を行わないこと。
- ・地域の実情と地域住民の要望に応じて、国立病院の機能強化を図ること。なお、指宿病院においては、産科・小児科・循環器科・神経内科医療を機能強化することなど。

提出先：内閣総理大臣ほか関係大臣

顚娃准看護学校条例

入学金・授業料などの改正



- 入学金 2,000円 → 5,000円
- 授業料 月額6,000円 → 10,000円
- 入学検定料 1,000円 → 2,000円

この条例は、平成24年4月1日から施行されます。

条例の制定

南九州市公民館条例ほか4条例

施設使用料などの統一

市内の校区・地区公民館20館と校区公民館として使用されている次の4施設の使用料及び管理規定が統一されます。

- ・川辺農村環境改善センター【勝目校区】
- ・総合地域施設（永里農業研修館）【中福良校区】
- ・知覧農業者トレーニングセンター【松山校区】
- ・手蓑研修館【手蓑校区】

この条例は、平成24年4月1日から施行されます。



▼路線名
赤坂線（変更）
顚娃町牧之内字馬引田
（144m延長増）
御領字田神前



▼路線名
瀬世向建石線（認定）
（延長221.5m）
知覧町瀬世字上り屋敷
字建石



▼路線名
馬場君屋敷線（認定）
（延長183m）
川辺町中山田字城内
中山田字君屋敷

市道路線の認定・変更

西良仁議員

辞職

9月30日をもっての議員辞職願が提出され、議会において許可されました。

年々増加傾向

一般会計

219億452万円

平成22年度一般会計と7特別会計及び水道事業会計決算認定が9月定例会に上程されました。議会では、一般会計決算特別委員会と特別会計決算特別委員会を設置し歳入歳出決算説明書や監査委員の決算審査意見書などを参考に執行部の出席を求め審査し、いずれの決算も認定しました。

更なる財政の健全化と
効率的な事務事業の遂行を

平成22年度一般会計の歳入総額は22億6,869万円、歳出総額は21億9,452万円、不納欠損額1億7,722万円、収入未済額9億8,153万円となっている。

収入未済額の主なものは、国・県補助金の繰越明許に係るものが8億2,666万円、市税、保育所負担金、住宅使用料及び督促手数料などに係る滞納額が1億7,886万円であり、税など負担の公平性から厳正な対応をとるよう要望する。

財政運営については、前年度決算と比較し好転しているものの、依然として硬直化していることには変わりはないことから、行財政改革を進め、健全で弾力性のある運営に努めることを要望する。

一般会計決算の概要

区 分		22 年 度	21 年 度	差 額
歳入	市 税	33 億 8,105 万円	33 億 5,976 万円	2,129 万円
	地方交付税	94 億 1,797 万円	88 億 1,017 万円	6 億 780 万円
	国県支出金	42 億 6,598 万円	51 億 8,789 万円	▲ 9 億 2,191 万円
	市の借入金	28 億 1,311 万円	20 億 1,314 万円	7 億 9,997 万円
	そ の 他	28 億 879 万円	33 億 4,529 万円	▲ 5 億 3,650 万円
	合 計	226 億 8,690 万円	227 億 1,625 万円	▲ 2,935 万円
歳出	総 務 費	23 億 3,397 万円	30 億 6,074 万円	▲ 7 億 2,677 万円
	民 生 費	58 億 5,765 万円	56 億 3,712 万円	2 億 2,053 万円
	衛 生 費	15 億 9,037 万円	15 億 5,250 万円	3,787 万円
	農林水産業費	18 億 1,336 万円	19 億 4,202 万円	▲ 1 億 2,866 万円
	土 木 費	20 億 1,455 万円	23 億 9,627 万円	▲ 3 億 8,172 万円
	教 育 費	30 億 2,070 万円	24 億 816 万円	6 億 1,254 万円
	公 債 費	26 億 7,272 万円	29 億 8,453 万円	▲ 3 億 1,181 万円
	そ の 他	26 億 120 万円	19 億 4,272 万円	6 億 5,848 万円
合 計		219 億 452 万円	219 億 2,406 万円	▲ 1,954 万円

市債(借金)と基金(貯金)の推移

区分	平 成 22 年 度		平 成 21 年 度		平 成 20 年 度	
	総 額	一人当たり (人口 39,738人)	総 額	一人当たり (人口 40,391人)	総 額	一人当たり (人口 40,861人)
市債	220億4,428万円	55万円	215億7,412万円	53万円	221億8,695万円	54万円
基金	80億5,705万円	20万円	66億9,419万円	16万円	64億1,748万円	15万円

22年度
決算認定

医療費が

特別会計

企業会計

112億4735万円

3億8740万円

審査の中で

国民健康保険事業

保険税収納率の動行について、現年課税分は0・3ポイント減、滞納繰越分は1・58ポイント増で、収納金額は約600万円増の3748万7千円であるが、前年度に比べ収入未済額が増加しており非常に厳しい財政運営となっているため、今後も医療費抑制に向けた指導強化と徴収体制の強化による収納率向上に努めるよう要望する。

介護保険事業

問 介護予防サポーター養成講座の内容と活動成果は。
答 講座は年7回開催され、ストレッチ体操、筋力体操及び楽しい場の雰囲気づくりの研修などを実施し、57人の介護予防サポーターが育成されている。なお、新たにサポーターになられた方が中

心になり、介護予防自主グループ結成に取り組み、14グループが誕生している。

簡易水道事業

頤娃地域中央簡水配水管布設工事や川辺簡水下山田地内配水管布設工事など実施している。

問 石綿管更新の進捗状況は。

答 川辺地域は、川辺簡水下山田地内を580メートル更新し、22年度末で960メートル残っており、市道馬場大倉野線の改良工事の進捗にもよるが、24年度末までに終了したい。

また、頤娃地域は、中央簡水、青戸簡水の計2645メートルが残っている。中央簡水は23年度から実施し、24年度末に終了予定で、青戸簡水は県道石垣喜入線の改良工事にあわせて更新する予定である。

水道事業

問 有収率が前年度と比較すると1・22ポイント減の90%となっている主な要因は。

答 水道管の老朽化が進み、漏水が前年度より多く発生したことによるもの

のである。
委員会から簡易水道事業においても、有収率が漏水により減少している。漏水箇所が判明したら、早急に対応し、健全経営上、有収率向上に努めること。

特別会計・企業会計決算額

区 分	歳入決算額	歳出決算額	差引残額
国民健康保険事業	62 億 6,905 万円	60 億 5,469 万円	2 億 1,436 万円
老人保健事業	802 万円	461 万円	341 万円
後期高齢者医療	4 億 9,100 万円	4 億 9,021 万円	79 万円
介護保険事業	41 億 5,326 万円	40 億 3,557 万円	1 億 1,769 万円
簡易水道事業	3 億 9,871 万円	3 億 7,769 万円	2,102 万円
農業集落排水事業	7,366 万円	7,239 万円	127 万円
公共下水道事業	2 億 1,763 万円	2 億 1,219 万円	544 万円
合 計	116 億 1,133 万円	112 億 4,735 万円	3 億 6,398 万円
水 道 事 業			
収 益 的	3 億 3,457 万円	2 億 7,463 万円	—
資 本 的	601 万円	1 億 1,277 万円	—

市政に問う!

一般質問

“議会を傍聴してみませんか”

次の議会は**11月21日**開会予定

手続き簡単!! 本館2階で
住所・氏名などを書くだけ



深町 幸子 議員

大園 市長選挙のマニフェストを示す考えはあるか。次の事項に答弁を。
①新庁舎建設計画があるのか。
②合併推進債の充当と今後の活用の考えは。
③農業振興は、最も大事だと思うが、農畜産物の南九州ブランド確立への取り組みは。



大園 秀己 議員

市長選挙

市長／前向きに課題解決に取り組む

マニフェストを示せ

通学路

安全対策は
その後どうなった
教育長／可能な整備をする

④集落営農の組織体制づくりについて、具体的な支援策を示せ。
⑤観光客の増加に向けた施策は。
⑥友好姉妹都市との物産交流を積極的に取り組む考えは。
市長 マニフェストは作成中である。
①新庁舎計画はないが、現庁舎の耐震補強が必要である。
②3年間で総額5400万円の借り入れをしている。今後は、財政状況や公債残高に留意しながら判断する。



枝豆収穫を無料開放している集落営農組織

③生産者の顔の見える販売体制を図りPR活動により銘柄確立を目指す。
④認定農業者、新規就農者、集落営農組織などを育成し、耕作放棄地対策・担い手対策・農地流動化対策を一体的に検討

する。
⑤新幹線開業で増加傾向にある。新たな観光資源もいくつかあり期待している。
⑥今後も民間団体などと協力して友好を深めて行く。

深町 平成23年第1回議会定例会において、児童生徒の安心安全対策のため、通学路の暗い箇所には防犯灯の整備を進める考えはないか質問したがその後の対応を問う。

市民の声を

地域活性化対策

定住促進に向けた総合的な施策は

市長／多種多様な施策を展開する

松久保 正毅 議員
松久保 近年南九州市では、少子化による自然減と、転入者の減少・転出者の増加により人口減少が急速に進行している。市内の中山間地域から市内中心部へ、あるいは市外への人の流れによる過疎化も進行し、地域コミュニティの維持が困難になるなど深刻な問題と



松久保 正毅 議員



下校中の川辺中学生徒

市長 まず集落内の危険箇所を優先的に、そして緊急性が高く特に要望が強いところから、年次的に可能な整備を行っていかねばと考えている。

教育長 3月議会では「早急に児童生徒に聞き取りをする」など、的確

な実態把握を行い、日没後の下校時の安全確保に関する意識を高めるとともに、防犯灯設置に関する手続などについて各学校への指導をすると答弁した。その後、中学校を中心に実態調査を行い、集落内の防犯灯について

センターの整備。

定住促進を図るには、

⑤まちづくり事業・集会施設整備費助成。

これまで取り組んできたこれらの施策を連携させ、一体的に実施し、あらゆる角度から多種多様な施策を展開する必要がある。

⑥市民の健康増進に努め、コミュニティバスの運行による日常生活の援助を行う。

市長 南九州市の人口は、過去5年間で3100人減少している。移住定住促進のために6つの施策を掲げている。

- ①企業誘致促進の補助金制度・農業の後継者奨励金制度による就農支援。
- ②住宅団地の分譲や住宅取得補助及び公営住宅の整備による快適な住環境の提供。
- ③特別保育や乳幼児医療費助成年齢の引き上げ。
- ④校舎の耐震補強や給食



住宅取得補助を受けて夢のマイホーム

観光行政

本市めぐりの観光ルートを設定する考えは

市長／バス事業者とも協議検討したい



山下 つきみ 議員

山下 九州新幹線が全線開業し、本市への観光客増を図るべきと考えるが個人客については、中央駅からの交通アクセスが悪く、移動手段の利便性を確保することが望まれる。バス事業者との連携による本市めぐりの観光ルートを設定する考えはな

により、個人客が増加する傾向があるが、本市への移動は、交通費や時間の関係で円滑な旅の妨げとなっている。

本市観光めぐりコースの設定は、現在運行している民間の実績に照らしても、費用や需要確保の点で困難かと思うが、実施時期や催行回数、魅力あるコースの設定など、ある程度の条件をクリアできれば、モニターツアーとしての実施は可能と思う。

今後、課題を分析し、バス事業者とも協議しな



望まれる個人観光客への交通アクセス整備

がら、より効果的な事業としての検討をしたい。

釜蓋神社・番所鼻公園などの整備は

市長／地元と連携し応分の対応を実施

山下 近年、観光客が増加しているが、市としてどう整備するか。

市長 駐車場やトイレ、物販体制、交通アクセスなど、環境整備の必要がある。地元と連携し、施設管理や維持管理、情報発信の観点から、応分の対応を実施したい。

学校安全対策

側溝に蓋版設置を

教育長／各学校からの要望をもとに設置



田畑 浩一郎 議員

田畑 学校内の側溝に蓋版の無い箇所が多く見られるが、児童生徒の安全や学校が災害時の避難場所となることなどを考慮し、蓋版を設置する考えはないか。

教育長 各学校には、多くの側溝があり相当な経費を伴うことから、危険度を考慮し、学校からの要望をもとに設置したい。

市長 避難場所としては、学校管理者、関係者などの意見を考慮して設置したい。

防犯ブザーの点検は教育長／定期的な点検・指導に努める

田畑 防犯ブザーの携行率を示せ。また壊れたブザーを携行している児童が多く見られるが、点検

や指導を行っているか。

教育長 市全体の携行率は65%、また点検については学校間の差異があるが、月ごとや学期ごとに行っている。安全確保のため定期的な点検指導に努める。

田畑 購入方法が違うために携行率が低いと思うが、市で配布する考えはないか。

教育長 今のところ考えていないが、今後は検討したい。



整備が待たれる側溝

国保事業

税率改正を含め 今後の対策は

市長／慎重に議論を重ねる



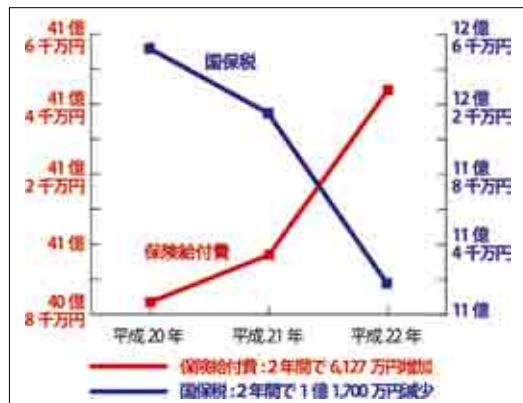
森田 隆志 議員

業の現状や対策について、市民に伝えることが大切であり、事業の方向性について十分な説明が必要である。

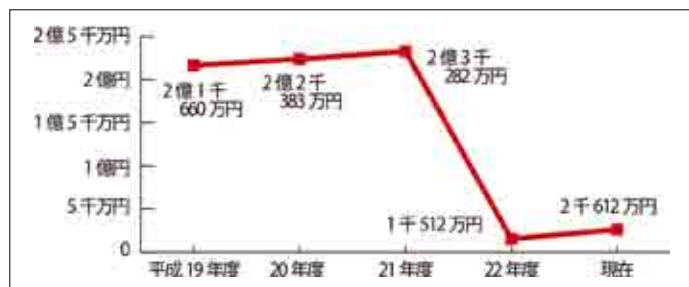
森田 国民健康保険事業の運営は、危機的状況である。平成23年度は、一般会計から、1億3千2百万円の基準外繰入を行っており、このままでは、事業が立ち行かなくなると考える。

条例改正を行い、税の値上げを市民にお願いするか、今回のように一般会計から繰り入れを続けるか、関係各課と議論を重ねて事

業の現状や対策について、市民に伝えることが大切であり、事業の方向性について十分な説明が必要である。



保険給付費と国保税の推移



国保財政調整基金残高

市長 国保事業の必要な経費は、事業の中で賄っていくのが正当だと考える。

今後、医療費の抑制について、いろいろな機会ですべてに注視しながら、ぎりぎりまで努力して、税率改正には、慎重に取り組んでいく。

その他の質問

- ・自治会運営
- ・火葬業務

整備の考えは

教育長／関係課と協議して進める

二松台公園



菊永 忠行 議員

菊永 二松台公園は、ナイターソフトボールリーグやスポーツ少年団活動など、地域住民に広く利用されている。公園内の旧プールは雨水が溜まり、雑木が繁茂しているが、安全面や衛生面から、旧プール撤去を含め整備する考えはないか。

教育長 旧二松中学校プールは、昭和48年7月に建設され、昭和56年3



雑木が繁茂している旧プール

月の学校閉校とともに閉鎖されたもので、約30年近く、手つかずの状態だったと考えられる。今後、排水対策を講じ、埋め戻しを考えている。

その後の活用については、関係課と協議して進めていく。

南部出張所の存続は
市長／合併協議会の
決定を尊重

菊永 市長は、平成20年6月議会、南部出張所は5年以内に廃止すると

市長 南部出張所については、地域バランスも考慮する必要があることから、5年以内に廃止すると決定されている。また、利用実績も年々減少していることから合併協議会の決定を尊重し、予定どおり廃止する方針に変わりはない。

市町村設置型による 処理の検討は

市長／新たな情報を収集して
対応したい



竹迫 毅 議員

竹迫 河川の浄化や地域環境改善のため適正な家庭雑排水の処理が求められるが、今後どのように推進する考えか。

市長 河川などの水質保全を図るためには生活雑排水対策が重要と考える。単独浄化槽から合併浄化槽へ転換する助成拡大などについても検討し、生活環境の保全に努

めたい。

竹迫 人口減などにより、合併浄化槽設置などの個別処理で対応すべきと思うが、設置には個人型と市町村型がある。国・県の補助制度などから、市町村型が有利と思う。合併浄化槽の設置は市内の建設業、水道工事業者でもできる。また、宅内改造などが必要で、大工さん、左官屋さんなどの仕事も増え、地産地消で市内の活性化にもなる。



地元業者による浄化槽設置工事

今後、市町村設置型に取り組む考えはないか。

市長 検討・協議しながら、県などにも問い合わせを行い、アンテナを高くして新たな情報をキャッチし対応したい。

その他の質問

- ・図書館及び学校図書室
- ・校区・地区公民館の使用料の納入方法の改善

学校再編

小中学校の 再編計画は

教育長／「学校のあり方検討委員会」で検討



塗木 弘幸 議員

塗木 新聞記事によると県内の12自治体では公立小・中学校を再編する計画で108校が閉校の対象となっている。本市においても少子化や過疎化により児童生徒が急激に減少している。「学校のあり方検討委員会」が設置されたが、小・中学校再編計画は立てられていないのか。

教育長 学校は、地域の歴史や文化・伝統とともに地域の中心であり知的財産でもあるので、小規模校も可能な限り存続を図りたいと考える。現在のところ、決して具体的

に明確な統合・再編を前提として考えていないが、いずれその時期がくると考え、今年度から「学校のあり方検討委員会」を立ち上げた。

塗木 小規模校の改修工事に多額の予算が計画されているが、この検討委員会の方向性が決まってから実施するべきではないか。

いては耐震度調査で問題になったところから行っている。市内各小・中学校は社会教育施設、体育施設でもあり統廃合に関係なく進めていく。検討委員会の方向性が示されるまでには、かなりの時間が必要で耐震と整備は、従来の方向で進めていく。

塗木 市長の見解は。

市長 学校は地域の拠点であり、いろいろな思いの場でもあるので存続の要望が多い。また、地震などの災害時は避難所にもなるので、今後の検討委員会で意見を聞く。



国保事業

健全な運営対策は

市長／税率改正も含め慎重に協議を重ねる



蔵元 慎一 議員

国の市町村が抱える問題である。これは、国保制度自体の改革が必要であり九州市長会を通じ国への要望を行っている。

今後は、厳しくなる事業運営に向け、24年度以降、税率改正を行うかどうかを慎重に協議を重ねていく。増加し続ける医療費の抑制については特定健診や各種がん検診などの受診を推奨しながら、長期的に市民の皆様が健康で過ごせるよう取り組み施策を継続していく必要があると考える。

蔵元 近年、特に地方においては、少子高齢化及び長引く経済状況の低迷が、医療費の高騰と税収の減少を招き、国民健康保険事業の運営は急速に悪化している。

本市においても合併後3年間で国保税収は1億1300万円の減収となり、医療費は6127万円の増となっており、国保財政は危機的状況になっている。今後の健全な事業運営に向け、どのような対策を取っていく考えか。

市長 国民健康保険財政のひっ迫した状況は、全



医療費の節約に努めましょう

中福良・上之町間の整備を急げ

市長／整備は必要であり今後検討

歩道整備



東 兼喜 議員

東 幹線市道の歩道整備状況と未整備の実態や今後の整備計画を示せ。

市長 現在の市道歩道設置延長は、1級・2級が2万9804メートル、その他が、1万3473メートルで、歩行安全な交通を確保するために必要な整備で、今後も計画に進めたい。

東 一級市道永里浮辺線の中福良、上之町間の歩道整備が急務と考えるが見解を問う。

市長 この区間の未整備については、現在実施中の和田戸場間の歩道整備や、和田橋前後の改良工事の進捗を見ながら今後検討する。

予算の範囲内での整備となり、計画に搭載されているからといって、必ず計画どおり実施できるものではない。計画については、毎年見直しを行っている。

東 歩道整備について、自治会、学校関係者からの要望はないか。

教育長 学校には直接要望はあがってこないが、自治会には要望があがっていると思う。

建設部長 実施計画どおり整備していきたいが、

その他の質問
・市道の県道昇格



歩道整備が望まれる永里浮辺線

言提せか活

常任委員会が所管する事務について、議会閉会中に調査を行いました。
今回は、地域活性化対策について、高齢者の健康増進対策について、及び集落営農の現状と課題について調査し、当局に提言をしました。

定住促進ビジョンに基づいた事業の展開を

総務常任委員会

総務常任委員会は、地

んでいる。

域活性化対策について、定住促進対策を主眼に、岡山県笠岡市と島根県大田市で調査を行いました。

大田市は、平成19年度に定住促進ビジョンを策定し、その実施期間を5年間としている。

定住促進の総合相談窓口を設置し、空き家の活用対策や移住定住者の各種相談に応じている。

また、「おおだ定住促進協議会」を組織し、市民協働の取り組みを行っている。

センターには専任職員を配置し、各部署と連携協力している。

情報発信においては、定住支援ガイドブックと情報誌を作成し、効果的に活用している。

倉敷市や隣接する広島県福山市を通勤圏内として、子育て世代の定住促進を図るための事業を行っている。

また、結婚推進事業は、近隣市との広域で取り組

— 提言 —

(1) 定住促進ビジョンを早急に策定し、現状の分析と具体的な目標に基

づいて事業を展開すること。

(2) 定住希望者に対する情報提供や各種申請手続きなどのサポートをきめ細かに行うために、中心となる部署を明確にし、専任職員を配置すること。

(3) 企業誘致などによる新たな雇用の創出が難しい現状においては、広域に目を向け、本市の住環境のよさをアピールすること。

(4) 情報誌などの作成を含め情報をしっかりと発信することが重要であるが、情報の発信においては、情報媒体や情報発信対象などの絞り込みを行うこと。



大田市で研修する総務常任委員

国保制度改革に向けての 国・県への働きかけを

文教厚生常任委員会

文教厚生常任委員会は、高齢者の健康増進対策について、岡山県瀬戸内市、広島県庄原市で調査を行いました。

瀬戸内市では、子ども

から高齢者まで地域で安心して生き生きと生活できる相互支援システムを構築することを目的として、集会所や公民館などで、住民がふれあいサロン活動を実施し、一人暮らしの高齢者や虚弱高齢者が地域において孤立しないよう情報提供やコミュニティづくりを行っている。

庄原市では、高齢者の健康づくり計画として、
①おいしく食べたい。
②いきいきと過ごしたい。
③こころ豊かに暮らしたい。という三つの柱に具体的な数値目標を定め、事業の進捗状況や実践結果について市民へのアン

提言

ケート結果なども加味しながら検証を行っている。

(1)健康づくりへの意識啓発は、行政と市民が一体となつて取り組む必要があることから、機会あるごとに

地域へ出向き、健康づくりのために活動する市民グループへのサポートや、地域リーダーの育成などを積極的に支援すること。

種類	平成21年度			平成22年度		
	対象者(人)	受診者数(人)	受診率	対象者(人)	受診者数(人)	受診率
特定健診	9,190	4,193	45.6%	9,037	4,547	50.32%
長寿健診 (76歳以上)	7,864	860	10.94%	7,776	1,005	12.92%
健康診査 (75歳)	745	181	24.30%	709	167	23.55%
歯周疾患検診	1,919	517	26.94%	1,890	433	22.91%
骨粗しょう症検診	1,838	666	36.24%	1,702	628	36.90%
肝炎ウイルス検診	—	231	—	—	147	—
結核検診	7,432	5,961	80.21%	6,805	5,197	76.37%

本市の健診(検診)の受診状況

施策を示し、年度ごとに実践結果についての検証などを行い効果的な事業推進に努めること。

(3)国民健康保険事業の財政状況の悪化は、本市だけではなく数多くの自治体が抱える問題であるので、適正な事業運営が行えるよう国の支援を含めた医療制度改革について積極的に働きかけること。

集落を基盤とした農業生産の維持を

産業建設常任委員会

産業建設常任委員会は、集落営農の現状と課題について、兵庫県たつの市、岡山県真庭市で調査を行いました。

たつの市は、平成17年

度に集落の農地について、担い手農家が管理できる面積を算出したところ、将来、耕作放棄地となる農地が全体の約3割にのぼることが判明し、集落内の農地保全や担い手などについて、集落が今後どのように進むべきか、全員アンケートや男女別の世代別座談会を実施している。また、各農家から農地面積及び農業委託面積の聞き取りを行い、10年後の集落農業のビジョンを作成している。22年度からは新規の集落営農の組織化を推進するため、未来営農推進講座を年5回開催している。

真庭市は、中山間地域が多く、高齢化により戸別経営だけでは地域農業の維持が困難となつてきたため、地域の農地を守るため182集落が中山間地域等直接支払交付金事業、25集落が農地・水保全管理支払交付金事業を活用し農業生産の維持を図っている。

また、集落営農組織などに対しては、補助事業で導入し、耐用年数を過ぎている農業機械を買い換える場合、購入経費の6分の1以内、上限額80万円の補助制度を23年度から設けている。

提言

(1)組織化で、生産コスト削減や、農業機械などの合理化が可能な地域はないか検討すること。

(2)補助事業で導入し、老朽化した農業機械の買い換えは、市単独補助を含め新たな方策を講ずること。

(3)組織間の連携強化と支援体制を確立すること。

(4)生産から販売まで一体的に捉え、生産意欲が高まる振興策に取り組むこと。

(5)農業者、農業委員会、土地改良区、農協、県などの関係機関による協議会などを設置し、十分な協議を行い、集落営農の今後のあり方や方向性を示すこと。

本市の集落営農組織

頭窪地域：3組織 川辺地域：11組織
知寛地域：4組織 (うち2組織は農事組合法人)

集落営農の組織形態

- 「共同利用型」…構成農家が所有または共有する機械や施設を共同利用する。
- 「作業受託型」…オペレーター型とも呼ばれ、構成農家やオペレーターなどが組織の所有する機械や施設を利用して基幹作業を受託する。
- 「集落ぐるみ型」…共同経営型とも呼ばれ、集落全体の営農に個々がその能力にあった作業に従事し、効率的な生産を行う。

市

民

の

声



知覧町 郡

川床 剛士

夢！特攻平和会館の『世界遺産』登録を

南九州市の誕生に伴い市議会が運営されはじめて四年近くになります。

議員の皆様には、これまで新市発展のためにいろいろとご尽力いただきました。その御苦労に対し改めて敬意と感謝の意を表します。

現在、私は特攻平和会館において語り部として勤務させていただいております。

出撃を前にした特攻隊員たちが遺した遺書・手紙は、隊員の戦死を前に究極の心を映した無言のメッセージであり、見る

人をして感動を与えずにはおれません。

『当時の真情を後世に正しく伝え、世界恒久の平和に寄与する』という

知覧町の先輩諸氏が築かれた平和会館の理念達成に向け、この世界に類のない国の宝、文化遺産とも言える特攻の真実を、特攻隊員の心を、国内のみならず更に世界に向けて発信していくことが今

私たち市民に課せられた大きな使命ではないかと考えます。

現在に生きる世界の全ての人々がこの特攻の遺産を共有し後世に引き継ぎ、戦争のない平和な社会を築くための人類の未来の財産として『知覧特攻平和会館』の『世界遺産』への登録を提案するものです。

これが実現しますと、より深い特攻慰霊の道が開けるとともに、飛躍的に知覧が有名になり、更

に質的にも量的にも交流・来訪・観光が増大し、南九州市の地位の向上発展に大きく寄与できると考えます。

また「特攻」について、国内外に広く認知させることにもなり、戦争のない世界恒久平和実現への貢献が一層促進することとなります。

南九州市にとって空前絶後と思われる平和会館の世界遺産化事業は、いろいろ困難な道程が予測されますが、市民そして市議会の皆様にはあらゆる困難を克服する大きな牽引力となつてご協力、ご活躍をいただけたら大変有難く存じます。

この夢が、平和会館の夢に始まり、知覧町、南九州市の夢を経て、更に尊い命を捧げた特攻隊員の夢として発展することをお願い、議員の皆さんとともにその実現に向けて参りたいと考えます。

茶畑が広がる緑の大地、朝夕に開聞岳を眺望できる長閑な暮らしは居心地が良い。これまでになく贅沢な気分になれる。将に住めば都とはこのことである。



額娃町上別府

平川 忠久

文化を発信できる地域に

茶畑が広がる緑の大地、朝夕に開聞岳を眺望できる長閑な暮らしは居心地が良い。これまでになく贅沢な気分になれる。将に住めば都とはこのことである。

地域の特色は何かと尋ねられたときに、農業以外には即座に思い浮かばないが、運動面では、駅伝が強くスポーツ熱が高い地域であると答えられる。ところが、文化的活動となるとこれがとすぐに思いつかない。

しかし、よくよく考えると延々と郷土に伝えられている踊り、隔年で開

催される各地区公民館の文化祭で展示される作品は、創作性の高い力作がずらりと並ぶ。竹林から掘り出したごつい根っこに磨きをかけ鉄瓶に似せた工芸品が竹の自在鉤に掛けられ、実際にお湯を沸かせてみたくなる作品。小さな鉢の中に、壮大な自然の景色を創り出す盆栽の数々。油絵、水彩画、切り絵、書の道を究めた作品等々。これらの制作活動は普段の中で目立つ存在ではないが、展示された作品から地域の方々の芸術に対する熱い思いを垣間見ることができる。

このように、地域を改めて見つめれば他にない素晴らしいものを発見できる。これらの作品を一同にいつでも見られる場があれば、鑑賞する喜びと心にゆとりや潤いをもつことができる。また、地域の活性化にもつながるのではないか。文化の香りと生き甲斐を発信できる地域であってほしい。

編集後記

つい先日まで赤い彼岸花に縁だられていた田んぼの稲もすっかり刈り取られ、実りの秋を支えた刈株が秋の深まりを感じさせている。

幸い本市は台風の被害もなく収穫の秋を迎えているが、一方では手放しで喜べない現状もある。3月の東日本大震災は未だ余震が収まらず、原発被害、風評と現実の中で、大変な苦労を現地の方はされている。

また、近畿・東海豪雨災害、海外のタイ国では大洪水で街が水没するなど、これほど「天変地異」の脅威を感じた年があっただろうか。

被災地の日も早い復興を願うと共に、来る年は希望の年でありたい。

(山下)

委員長 峯 勝
副委員長 山下 秀昭
委員 満留 秀昭
大園 秀己

加治佐民生
菊永 忠行